

基本施策B2 核兵器廃絶の世論を喚起し、平和な世界を創造します

主管課：平和推進課

個別施策

- B2-1 平和メッセージの発信力を高めます
- B2-2 平和な世界の創造に向け、ネットワークの構築を進めます
- B2-3 平和をアピールできる人材を育成します

ア 施策の目的

国際世論が、核兵器廃絶を求め、更に拡大している。

イ 基本施策の評価

D c 目標を達成しておらず、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2
平和首長会議加盟都市数	6,585 都市 (26年度)	↑ 目標値	8,000	8,500	9,000	9,500	10,000
		実績値	7,247	7,568	7,744	7,902	
		達成率	90.6%	89.0%	86.0%	83.2%	
【補助代替指標】 日本非核宣言自治体協議会会員自治体数 ※【B2-2 から再掲】	306 自治体 (26年度)	↑ 目標値	324	330	338	346	354
		実績値	322	330	341	343	
		達成率	99.4%	100.0%	100.9%	99.1%	

※施策の成果を補完するため、成果指標として「日本非核宣言自治体協議会会員自治体数」を追加。

エ 評価結果の妥当性

基本施策及び個別施策の成果指標の達成状況等から評価を「D c」と判断しているが、成果指標はともに外部要因に影響されやすい指標であり、実績についても右肩上がりとなっていることから、「C b 目標を一部達成しており、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる」が妥当である。

オ 審議会における政策評価に対する意見等

- 「平和とは何か」の答えのひとつとして、民主主義や三権分立がきちんと守られていることが挙げられると考えられる。また、民主主義における多様性の担保として、3割の異性の意見は必要である。第1部会においても、女性が3割いることで、発言しやすくなっている。

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- 近年、芸術や音楽の分野において“文化を市民社会に根付かせよう”というキーワードがある。簡単に市民という対象が広くなりすぎてしまうので、ターゲットとする世代を決めて、根付かせる取組みを進めていくと良いのではないかと。

- 核兵器廃絶に関することが施策の中心にあるので、専門的に思われるし、難しく感じてしまう。親子記者活動など直接的ではなくても良いので、施策の入り口になるような、教育レベルでの取組みが重要ではないか。
- 高校生も含め、子どもたちが取り組んだ活動がもっと評価されるようお願いしたい。

キ 次期総合計画の策定に向けた意見

- 成果指標が長崎市の努力だけではどうにもならない指標であり、国の責任をも負うような政策評価の内容になってしまっている。
- 長崎市の実態と成果指標のズレが大きい施策であるため、次期総合計画に向けて、他の動きに左右されない成果指標の検討がかなり重要である。
- B1の被爆の継承と同じく、広島市との比較を行い、次期総合計画に向けて成果指標などの検討を行うこと。
- 総合計画全体について言えることだと思うが、全ての施策について数値目標を設定する必要があるのだろうか。全てを定量的に評価すべきかということも検討の余地があると思われる。